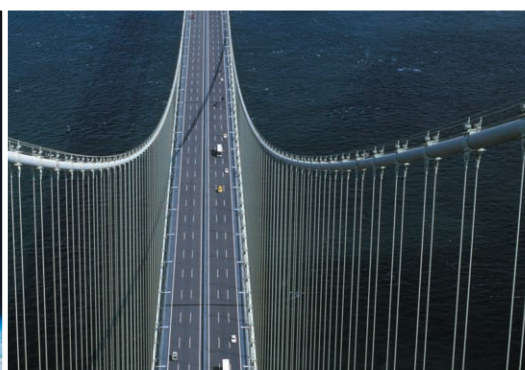


さまざまな分野へ商品・サービスを提供しています。



## 宇宙服

NASA（米国国家航空宇宙局）をはじめ宇宙プロジェクトには、YKKのファスナーが使われています。

1967年7月21日午前2時56分（日本時間）に、アポロ11号が人類ではじめて月の表面に着陸しました。その時の宇宙服には、YKKの気密ファスナー（空気を通さないファスナー）が使われていたのです。

月の表面は、一日の気温の差がとても大きく、昼間は摂氏120度まで上がり、夜にはマイナス157度にも下がります。また、宇宙空間は真空（空気がない状態）なので、宇宙服の中の空気が逃げてしまえば、人間が生きることができません。そこで、空気を通さない気密ファスナーが必要とされました。

人類にとっての大きな新紀元への一步に、YKKの技術が大きなチカラとなっていたのです。

## 明石海峡大橋

日本が世界に誇る、世界最大、最長の吊り橋である本州と四国を結ぶ明石海峡大橋（神戸市～淡路町）には瀬戸内海の厳しい気候条件に耐えるYKKの高い技術力で作られたファスナーが使用されています。

明石海峡大橋の排水溝の下には長さ約30mに渡って道路の伸縮に対応できるようゴム製のシートで作った「道路伸縮装置排水樋」が取り付けられています。

その樋で排水を受けることで路上のゴミなどが海に落ちないようにしています。しかし、溜まったゴミを取り除くといった定期的なメンテナンスが必要です。約2m間隔でYKKの水密・気密ファスナー（プロシール）を取り付け、清掃時にファスナーを開いてゴミをかき出しています。

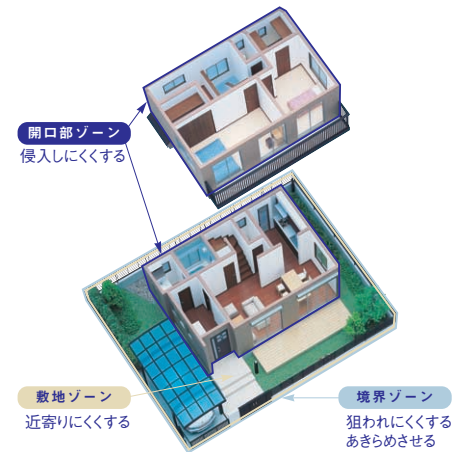
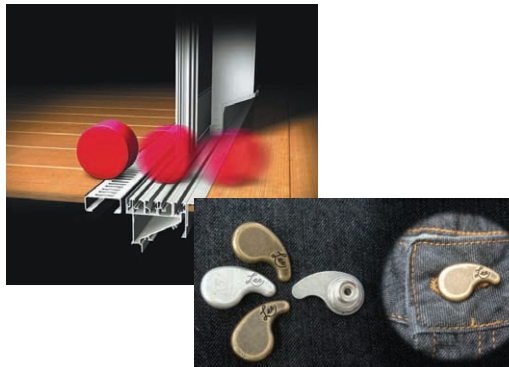
このような作業の利便性、効率性の向上が環境保全にも役立っています。

## オイルフェンス

1997年の日本海における「ナホトカ号油流出事故」や、2002年の「茨城県日立港での貨物船座礁事故」など、海洋における油流出事故は後を絶ちません。また、それに伴う環境破壊や生態系への影響は計り知れないものがあります。

生態系への多大な影響を考えると、万が一の際に被害の拡散を防ぐための対策が重要です。このとき、海を危険から守り、救うのがYKKファスナーで連結したオイルフェンスです。

流出事故の現場は広い範囲に及ぶことが多く、管轄の自治体も多方面に及ぶケースがほとんどです。そこで、各自治体が所有するオイルフェンスを現場海域に持ち寄り、頑丈なファスナーで接続していきます。そうすることで、予測できない汚染の広がりへの柔軟な対応を実現することができるのです。



### エマージェンシーユニット

エマージェンシーユニットは、地震などによる自然災害、紛争（戦争）などによる被災者の支援、さらに難民人口の増大を背景に、YKKのファスニング事業、建材事業で培った技術をYKK APが結集して開発した快適仮設空間ユニットです。

操作が容易なファスナーのジョイントにより、小部屋から部屋ごとに区切った連結空間まで各ユニットの連結が自由自在です。

エマージェンシーユニットは、イラク戦争時、ヨルダン難民キャンプにて医師団のテント病院として活躍しました。また、新潟中越地震では、NGO「災害人道医療支援会」（HuMA）所属の医師団を通じて、新潟県立十日町病院へ提供されました。

さらに、「エマージェンシーユニット」は、2004年10月26日に行われた、(財)日本産業デザイン振興会表彰式で、栄えある「グッドデザイン賞」を受賞しています。

### ユニバーサルデザイン

モノの使いやすさは、年齢や性別、手の大きさなどによって異なります。ユニバーサルデザインとは、子供から高齢者まで、だれにでも使い勝手がいいように設計、デザインする考え方です。

YKKグループでは、あらゆる人が快適に暮らすことのできるような生活環境をつくることを目指し、商品づくりをしています。

代表的な商品として、YKK APの「R's 70FL」は、下枠に段差をなくし、スムーズに通過できる安全フラットフロアです。

ファスニング商品の「勾玉（まがたま）ボタン」は、指に力を入れづらい方、従来のボタンを留めるには負担が大きすぎる方のために指の腹を使いボタンを回転させるだけで留めることができます。また、指先を使わず留められるため、爪の長い女性にも爪に傷をつけずにお使いいただけます。

### 防犯

安全は当たり前、という常識が崩れています。YKK APでは、安全な住まいのために、効果的な防犯対策を提案します。

侵入盗のあらゆる経路を3つのゾーンに分けて防犯の具体策を講じています。

窓やドアなどの「開口部ゾーン」では、侵入の三大手口であるガラス破り、無締まり、ドア錠破りへの対策として電気錠やボタン錠、戸締り確認システムを設置し、侵入に要する時間を稼ぎ、ためらわせ、あきらめさせます。

「敷地ゾーン」には、外から近寄りにくくする対策としてセンサーライトやカメラなどを設置。

敷地周りの「境界ゾーン」では、非接触式キーシステムを使用した門扉・フェンスなどで狙われにくい工夫をします。